

市川の空気を調べる会

通信8号 2015年9月3日(木)



発行 市川の空気を調べる会 代表 鈴木一義

電話&FAX: 047-373-8369 E-mail: kazu38yoshi@eos.ocn.ne.jp

事務局 秋元久枝 電話&FAX: 047-373-1971

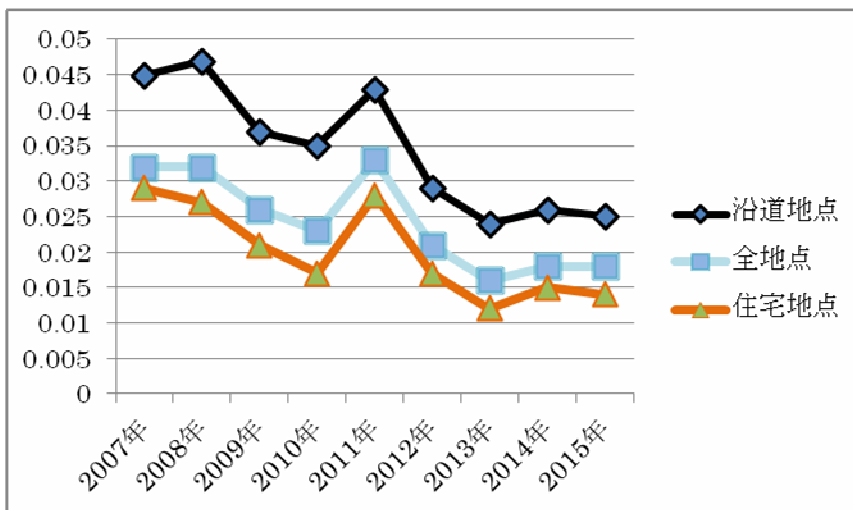
☆ 2015年6月度 NO₂測定結果の概要

梅雨入りとの重なりを避けて、例年より1週早め、5月末の定例測定でしたが、有効測定数が市川市内382件(6月度としては最高件数)、市外127件でした。

市川市内測定結果

6月度の市内全域と住宅地、沿道地別の平均濃度について今年も含め過去8年間の推移を図1に示します。

図1 市川市内の6月度 NO₂ 平均濃度(ppm)の年度推移



NO₂濃度は風速等で大きく変動しますが、今回の定例測定日は、市川市測定局各局の平均で見ると、周辺の日に比べ低目の日でした。私たちの測定値も図1の通り昨年、一昨年と同程度の低濃度となりました。

それでは実際にこの時期のNO₂濃度はどう変化しているのでしょうか。

図2 市川市大気汚染測定局の6月度測定値に見る24年間のNO₂濃度(ppm)の変化

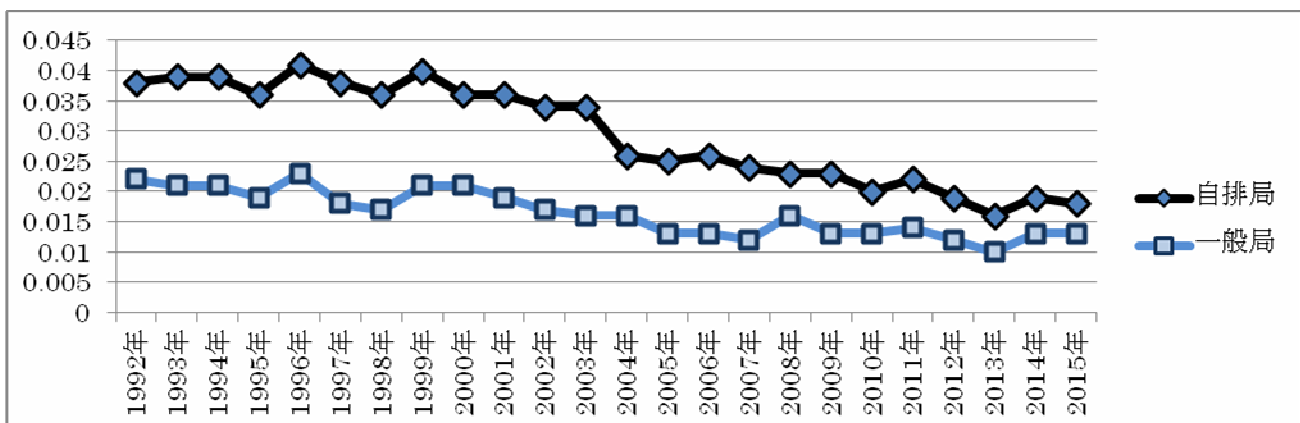


図2は当会が測定を始めた1992年からの、6月度定例測定日の周辺24日間の、市川市測定局（一般局と自排局各2局を平均）におけるNO₂平均濃度の年度毎の変化を示すグラフです（市川市環境保全課提供データをもとに作成）。各点は24日間という長期間の平均濃度なので、その時期のNO₂濃度をほぼ正しく表していると考えられます。グラフが示すように、2000年頃から住宅地（一般局）も沿道地（自排局）も、車の排気ガス規制の強化などによりNO₂濃度が低下し、今年度も含め住宅地はここ11年間、沿道地はここ4年間ほぼ同じレベルで推移しています（住宅地の濃度低下鈍化傾向は12月度にも見られています）。

市川市地域別のNO₂濃度

図3 市川市 区分図

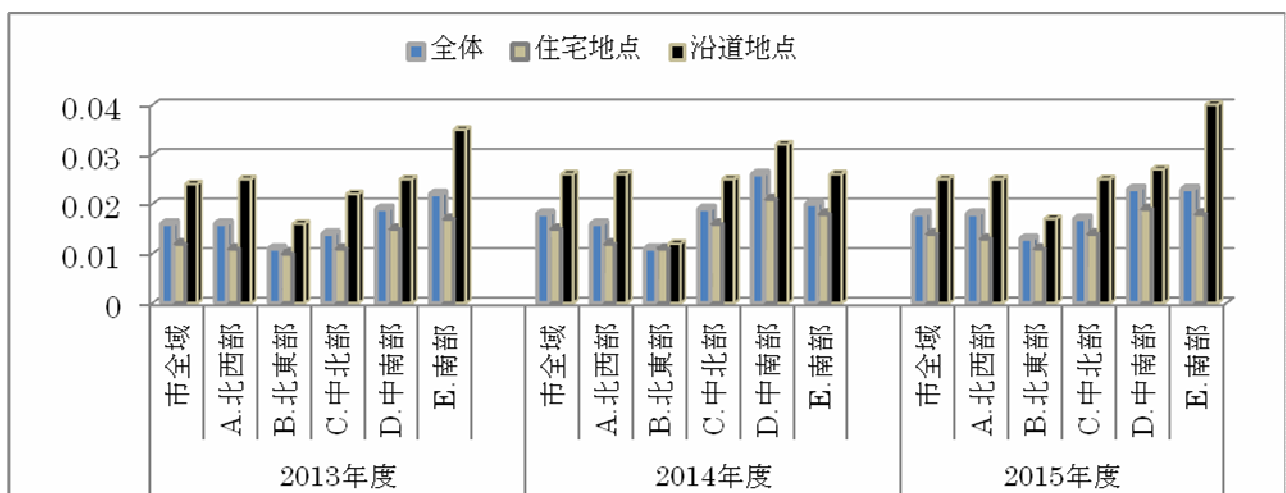


市川市を図3のように地理的に5地域に分けて、各地域の6月度のNO₂濃度を見てみましょう。図4は各地域の平均濃度を棒グラフで示したもので、2014年と2013年度も参考例として載せました。

沿道地が最も高いのは、湾岸道路が走るE南部（江戸川以南）ですが、住宅地が高いのはD中南部（JR線以南、江戸川以北）で、外環道国道部が松戸街道を経て接続する産業道路と京葉道路の多数の大型車両によるものと考えられます。A北西部（北国分、中国分、国府台、国分、曾谷等）は、外環道が接続する松戸街道により沿道部の濃度は高いですが、2車線なので住宅地は高くなっていません。

B北東部（大町、大野、南大野、柏井等）は、大型道路の影響を殆ど受けず、住宅地、沿道地とも最も低濃度となっています。C中北部（JR線以北で真間、須和田、宮久保、北方以南）は主に14号線と市川柏線が走り、走行車数が多いため住宅地は北西部より高めです。

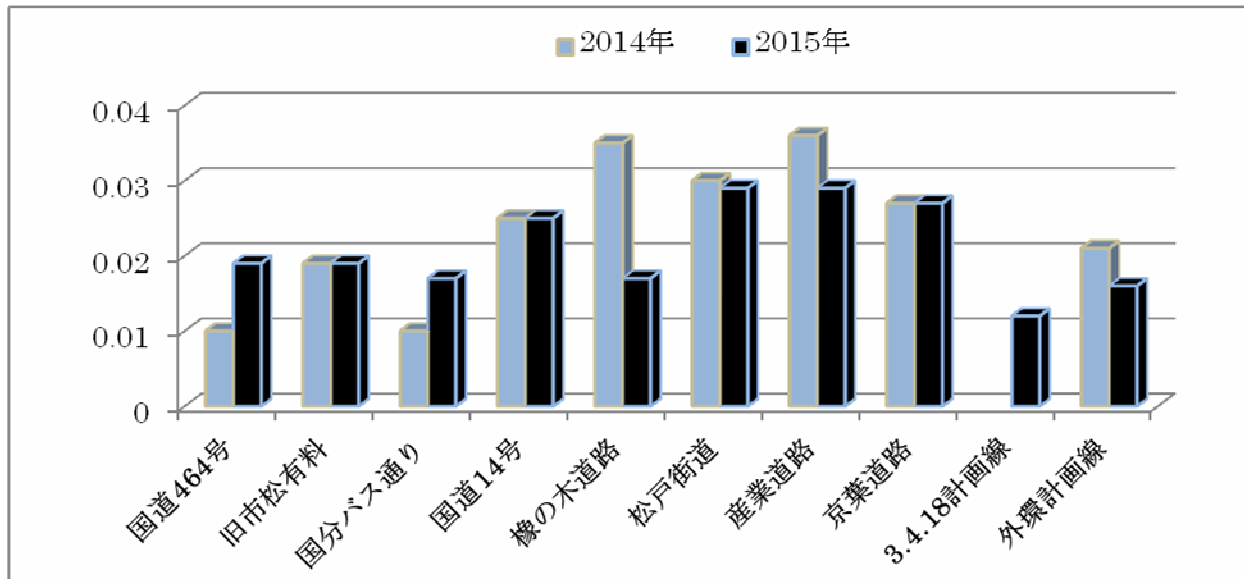
図4 2015年6月度市川市内地域別NO₂濃度(ppm) (2013年、2014年度も併記)



主要幹線道路沿道の汚染度

測定数が 6 地点以上の道路沿道地の NO₂ 平均濃度を図 5 に示します。外環道国道部と接続している松戸街道、産業道路は国道 14 号線より高く、京葉道路と同等かやや高めとなっています。これらより一段低く旧市松有料、国道 464 号、国分バス通りとなります。椽の木通りは外環道接続により車両数は増えていますが、今回は低くなりました。2つの計画路線では 3.4.18 線の低濃度が際立っています。なお、市内で最も高濃度と予想される湾岸道路は、測定数が少ないため（今回 4 地点）載せませんでした。

図5 測定数が多い市内道路沿道の NO₂ 平均濃度 (ppm) (2014 年度も併記)



☆ NO₂簡易月間計による測定がはじまりました。

私たちが使っている簡易カプセル（1 日計）の開発者天谷和夫先生は、簡易月間計も開発しています。一昨年からの 1 年間、市川、千葉、四日市市に分かれてこの月間計による測定試験を行ないました。その結果、測定値の信頼性が高く、使いやすいことが判り、昨年と今年の日本環境学会に発表し、この学会の雑誌「人間と環境」の編集者からの勧めもあり、同誌に論文として投稿することとしています。

写真の左端のガラス管が真ん中のアルミ筒に入り、1 カ月ごとにガラス管を交換するだけです。大きさは右端の 1 日計とほぼ同じです。

これまでの 1 日計の測定で経験されているように、24 時間の測定値はその日の風の強さなどにより大きく変わるので、ある場所の年度変化を継続的に見たり、道路開通前後の濃度比較をするには問題がありました。一方この月間計は 1 カ月間の平均濃度を測るので、日々の波に影響されず、かなり正しくその時期の濃度を測れます。今後この簡易月間計は広く使われるようになることが予想されます。

現在この簡易月間計で 2 つの測定試験を行っています。一つは建設中の東京外環道路の沿道で、他の一つは同じく建設中の 3.4.18 号線沿道です。ともに開通前と後の NO₂ 濃度の比較をするためです。



☆ 外環道路問題の現状報告

現在建設中の東京外環道路には、環境問題が未解決で残っています。当局が最近行った環境アセスメントでは、1日8万台も走る道路の開通による大気汚染増加を、ほぼ0と低く見積り大変問題ですが、ここでは騒音について取り上げます。

昨年1月に広島の高裁で、広島高裁は昼間65dB、夜間室内40dBの騒音を受忍限度として、これを超える騒音を受ける住民に賠償するよう国に命じ、国はこれを受け入れ、上告しなかったため判決は確定しました。17年前に改訂された現行の環境基準では通常の道路で昼間60dB、夜間55dBですが、特例として「幹線道路近接地域」では昼間70dB、夜間65dBとしました。この特例は「幹線道路沿いでは、住民は通常窓を閉めて生活する」ことを「根拠」としています。しかし前述の広島高裁の判決は、「窓を閉めた生活を住民に強いる正当な理由はない」としてこの特例の根拠を明確に否定しています。一方、騒音に関する東京外環道路の環境アセスメントでは、トンネル出口など数カ所で、この広島高裁判決の受忍限度を超えているのです。

開通前から、司法が認めた受忍限度を超える騒音を出すと当局自身が示している道路を、そのまま通すわけにゆかない、と住民グループが環境改善を求めて近く裁判を起こすことも考えています。その際にはどうぞ皆さまのご支援をお願いいたします。

◇ 市川市1%支援制度の結果

今年の市川市1%支援届出制の結果が出ました。当会は68人の方の届け出により、57,784円の交付を受けることになりました。皆さまからのこの力強い応援を生かし、市川の大気汚染監視事業の更なる充実に向けて力を尽くします。ご支援に厚く感謝いたします。

◇ 市川市環境フェアに出展します

今年の市川市環境フェアは例年の6月ではなく10月3日(土)に例年通り千葉県現代産業科学館を中心に開かれます。時間は10時～15時30分です。当会は、市内全測定地点の色別濃度マーク貼付の地図を中心に、測定結果のまとめや当会の事業紹介などを行う予定です。中央図書館に来られた折には、どうぞ立ち寄ってください。

◇ 各カプセルの6月度測定値は当会のHPで

各カプセルの測定値は、12月度カプセルお渡しの時や3月に出る年度測定報告書に載りますが、急いでお知りになりたい方は、当会のホームページ「市川の空気を調べる会」に一覧表が載りますので、そちらでご覧ください。

☆ あとがき

今年6月度の市内NO₂濃度は、私たちの測定値や市測定局の値からも低値で推移していることが判りました。しかし、このように住民が大気汚染を監視できるのも、また大気汚染の上下を云々出来るのも、平和が続いているからこそです。平和な生活と住みやすい環境を未来に引き渡すために、どうしても戦争は避けたいですね。

(以上)